

桜桃忌

東京三鷹市下連雀の禅林寺で毎年六月十九日に行われる桜桃忌は、太宰治の命日に行われる行事である。ご存じのように彼の最後の頃の小説『桜桃』に因んだ「桜桃忌」なのだが、この日は太宰治を慕うファンが大勢参加する。

私もその一人として参加したのだが、太宰の墓の右側には、彼の墓石より一回り大きな墓がある。名前は森倫太郎と刻まれてある。大御所の森鷗外の墓である。本名で刻まれてあるためか、桜桃忌の様子をその墓石によじ登り写真を撮っている人間が何人もいた。鷗外の墓でなくても墓石に足をかけるなどもつてのほかである。こういう常識のない人間は、桜桃忌に参加する資格などない。太宰は鷗外を尊敬していて師として慕っていた。そのため鷗外の横に葬られたのだ。そのことを知らない人間は、桜桃忌に来るべきではない。もう少し深く太宰治を知るべきだ。

左側には、太宰を尊敬していた田中栄光の墓がある。彼は師匠が自死したことにショックを受け、自分も自殺したのだ。百八十センチもある大男で、一九三二（昭和七）年ロスアンジェルズ・オリンピックにも参加した男である。心も体と同じように大きければ自殺などしなかったろうに。女性を伴って何度も自殺を図った太宰は、最後に大原富江とともに東京都民の飲み水である玉川上水で自殺を図り、二人とも亡くなったわけだが、そのため自分たちの飲み水を汚された都民から嫌われていた。自殺は決して人から称賛されることはない。

しかし太宰治は人から嫌われている面もあるが、日本の多くの作家に大きな影響を与えているのも事実である。

(明)